

2007年度までの環境行動計画と2005年度の成果

リコーグループ環境行動計画（2005年度～2007年度） ※達成目標年度の記載がないものは2007年度が目標。

1	製品環境性能の向上と 環境技術開発の促進	1) 新しい環境技術の開発 ※新技術開発状況の詳細につきましては公表しておりません。 21ページ
		①資源投入量の削減を目指した環境技術開発を行う ②脱化石資源社会を目指した環境技術開発を行う 2) 製品環境性能の向上 ①製品省エネルギー 23ページ ・リコー省エネ目標の達成 ②製品省資源 ・リユース部品使用質量を2003年度比5倍以上に向上（日本） ・再生プラスチック使用質量を1000tに向上 ③製品の環境影響化学物質排出基準の遵守 31ページ ・オゾン・粉じん・VOC類のリコー自主基準の遵守
2	グリーン販売の推進	①再生複写機の販売台数向上 27ページ ・販売台数を2003年度比10倍以上に向上（日本） ②用紙のグリーン販売の促進 ・古紙パルプ配合率60%以上に向上（日本）
3	事業所・オフィスでの コスト効果を狙った 環境保全活動	1) 事業所省エネルギー
		①事業活動に伴い排出するCO ₂ (総量)の削減 35ページ ・2010年度までにCO ₂ の排出量を1990年度比12%削減（リコー及び国内生産会社） ・2010年度までにCO ₂ の排出量を1998年度比10%削減（海外生産会社） ・CO ₂ 排出量を2000年度比4%削減（リコー及び国内・海外の生産会社） ・CO ₂ 排出量を基準年度比4%削減（国内非生産会社、各社単位で基準年度を設定）
		2) 事業所省資源
4	環境経営マネジメントシステム のレベルアップと、 システム統合による一貫性向上	①廃棄物発生量の低減 41ページ ・廃棄物発生量を2000年度比3%以上削減（リコー及び国内・海外の生産会社） ・廃棄物発生量を基準年度から2007年度までの活動年数に年2%をかけた値で削減 （国内非生産会社 各社単位で基準年度を設定） ②廃棄物の再資源化率向上 41ページ ・再資源化率を95%以上に向上（国内非生産会社） ③用水使用量の削減 41ページ ・用水使用量を2000年度実績以下に抑制（リコー生産系事業所及び国内・海外の生産会社） ④用紙使用量の削減 ・用紙使用量を2002年度比10%以上削減（リコー及び国内の生産会社・非生産会社、海外の生産会社）
		3) 事業所汚染予防
		①塩素系有機溶剤の使用を全廃 45ページ ・自社生産分に引き続き、社外生産委託分の感光体製造における塩素系有機溶剤の使用を全廃 ②CO ₂ 以外の温室効果ガスの排出量削減 36ページ ・半導体事業分野の温室効果ガス(CO ₂ 以外)排出量を2000年度比15%削減 ③非生産系所有地、借用地に対する土壌・地下水汚染の調査・対策 47ページ ・非生産系所有地、借用地に対する土壌・地下水汚染調査の完了（リコー及び国内・海外の関連会社） ・汚染の検出された所有地、借用地については、計画的な改善を実施
5	生態系保全を目的とする 環境社会貢献活動の推進	1) 環境経営マネジメントシステムのレベルアップ
		①ISO14001システムのレベルアップ 49ページ ・環境マネジメントシステムの統合（リコー、2005年度/リコーグループ、2007年度） ②製品含有化学物質マネジメントシステムの構築 31ページ ・リコーグループ製品含有化学物質マネジメントシステムの整備と強化（2005年度） ③環境経営情報システムのレベルアップ 51ページ ・資源投入の環境負荷情報をリアルタイムに管理可能な情報システムを画像事業以外にも拡大 ・物流の環境負荷情報をリアルタイムに管理可能な情報システムを海外拠点間物流にも拡大
		①生態系保全のための森林保全活動/環境社会貢献活動の実施 63ページ ・生態系保全を目的とした環境保全活動の実施 （海外の各極地域統括会社、国内のリコー生産系事業所・生産会社・販売会社、リコーロジスティクス、リコーリース、リコー三愛サービス）

※ 1～4について第三者検証を実施しています。

進捗状況 (2005年度実績)

- ▶ 画像機器について、小型軽量化のための各要素技術の開発を進めています。
- ▶ 石油に代わる新しい素材の採用に挑戦しており、2005年度は植物由来プラスチック部品を複合機に業界で初めて搭載しました。
- ▶ モノクロ及びカラー複合機共に省エネ目標を達成した製品を発売しています。
- ▶ リユース部品使用質量は2.3倍となりました。
- ▶ 再生プラスチック使用質量は578tとなりました。
- ▶ 2005年度発売の複写機、複合機及びプリンターの10シリーズの機種群でオゾン、粉じん、VOC類のリコー基準を達成しました。
- ▶ 再生複写機の販売台数は3.1倍となりました。
- ▶ 古紙パルプ配合率は56%に改善しました (2004年度は51%)。
- ▶ 排出総量 3.7%削減。
- ▶ 排出総量 2.8%増加。
- ▶ ・リコー及び国内生産会社：排出総量 2.0%増加。
・海外生産会社：排出総量 9.0%増加。
- ▶ 排出総量で販売会社 18.1%削減。リコーテクノシステムズ 3.1%増加。リコーリース 0.3%削減。リコー三愛サービス 8.6%削減。リコーロジスティクス 7.6%削減。
※各社基準年度比。販売会社とリコーリース、リコー三愛サービスは2002年、リコーテクノシステムズとリコーロジスティクスは2000年。
- ▶ 廃棄物発生量を 0.5%削減。
- ▶ 販売会社 9.8%削減。リコーテクノシステムズ 21.9%削減。リコーリース 23.3%増加。リコー三愛サービス 1.5%削減。リコーロジスティクス 26.3%削減。
※各社基準年度比。リコーロジスティクスは2002年、その他は2004年。
- ▶ 廃棄物再資源化率が84.6%～98.4%に向上
- ▶ 用水使用量を 9.1%削減
- ▶ 用紙使用量を 1.2%削減。
- ▶ 2006年3月に社外生産委託分の感光体製造における塩素系有機溶剤の使用全廃を達成しました。
- ▶ CO₂以外の温室効果ガスの排出量を 30%削減。
- ▶ 約1,000カ所の全リコーグループサイトの資料等調査が完了しました。
- ▶ 2005年度に表層土壌調査を実施したサイトでは新たな汚染は見つかっていません。
- ▶ 2005年度はリコーとして環境マネジメントシステムの統一した基本ルールを定めました。2006年度中に第三者機関による統合認証の取得を計画しています。
- ▶ リコーグループ共通の基準 (ガイドライン) を定め、基準に従った日本国内のグループ全体の製品含有化学物質マネジメントシステムの構築を完了しました。
- ▶ デジタル印刷機分野において資源投入の環境負荷情報が管理可能な情報システムを構築しました。
- ▶ 把握すべき詳細情報項目の検討及び構築における課題整理を進めています。
- ▶ 2005年度、国内外において生態系保全を目的とする環境社会貢献活動が広がり、各地の販売会社や工場で活発に行われるようになりました。
・海外の各極地域統括会社・各国販売会社62件 ・海外の生産会社16件
・日本国内のリコー生産会社・生産系事業所72件 ・日本国内の販売会社116件
・日本国内の非生産会社 (リコーロジスティクス、リコーリース、リコー三愛サービス) 9件